地質ニュース583号，46－48頁，2003年3月
Chishitsu News no.583, p.46－48, March, 2003

2002年地質情報展を終えて

河　村　幸　男[1)]

あれは一年前・・・

地質調査所時代に始められ，継続して毎年1回開催運営されてきた「地質情報展」も2002年秋の開催で6回を数えました．このイベントのもっとも大きな特色は，毎回開催地が変わることです．私たちが日頃扱う地質情報の多くは，対象地域に強く根ざしたものですから，各地域で，それぞれの立場で，有効に利用していただいてこその情報ともいえます．いろいろな場所での開催はとても良いことでしょう．しかし，毎回変わる会場，それこそが企画する側にとって最も厳しい条件となります．限られたコストで利用可能な開催場所で最も効果的な運営を図るため，毎年，会場選定と基本方針決定から企画が開始されます．

今回も，私たちが会場選定するにあたっては，同時開催の地質学会でホストとなる新潟大学理学部の全面的なご協力を得ました．同大学の立石雅昭教授が事前選考された会場は，全く条件の異なる，しかし，それぞれに魅力的な要素を備えた2会場です．一つは，特に集客力を望める，デパートの催事スペース，新潟市の商業ゾーン中心に位置し，会場の広さも必要以上です．私たちがこのイベントを企画する目的は，多くの方々に地質情報の有効性を訴える事ですし，産総研の成果普及部門に所属する私たちには，産総研と地質調査総合センターのPRも大切な使命ですから，集客力はもちろん大きな魅力です．もう一つの候補は新潟市の新しい文化ゾーンに位置する，真新しい文化ホールのギャラリーです．清潔感にあふれる立地条件ですが，それだけに目的以外の人々の行き来はほとんど無い場所です．ギャラリー自体もかなり狭く，これまでの会場の半分から3分の1程度でしょう．

私たちが，会場選定のために初めて新潟市を訪れたのは，2001年の年の瀬です．それぞれの会場を拝見し，担当の方とミーティングを行い・・・しかし，それでも決断には迷いました．ただ，デパートの会場を無料で提供していただく場合，私たちのイベントによって見込まれる集客が条件となるのは当然の事です．過去の開催を振り返っても，先方の希望する数字を提示することは困難でした．今回はこちらの会場を謹んで辞退させていただきました．

しかし，この選択に，私自身ががっかりすることはありませんでした．初めて全体の企画をまとめる立場としては，今までとはひと味違う演出を試みたかったからです．今までとはちょっと違うスタイルの「地質情報展」を提案してみようと．

春，本格始動！

まず，この会場の特色をもう一度考えてみましょう．ネガティブな部分は，まず「通りすがりの方に入っていただく可能性が薄い」「圧倒的に会場が狭い」「新しい施設で，ギャラリーという性格上からも，岩石を使う実演などは不可能」「会場周辺でのPR掲示ができない」．ポジティブな部分は「公共施設で使用料が安い」「パーティションや照明は備品を自由に使える」「とても綺麗」「天井が高い」など．これらから，今回の基本設計では，ギャラリーとしての長所を特に活かす事を念頭に置きました．狭い会場をフルに使いきるため，最初に考えたのは，テーマ的にもビジュアル的にも，会場全体を事務局側でデザインしてしまうことです．これまでは，協力をいただく研究者スタッフに必要なスペースを提示していただき，その中でそれぞれに展示を構成していただいてたのですが，今回は，事務局側でテーマを絞り，スペースを配分し，原案作成を依頼する形をとりました．ここで，私たちはこれまでの情報展でも人気の高かった「岩石割り」や「実際にいろんな石にさわる」コーナーをばっさりと切り捨て

1) 産総研 地質調査情報部

キーワード：新潟，地質情報展

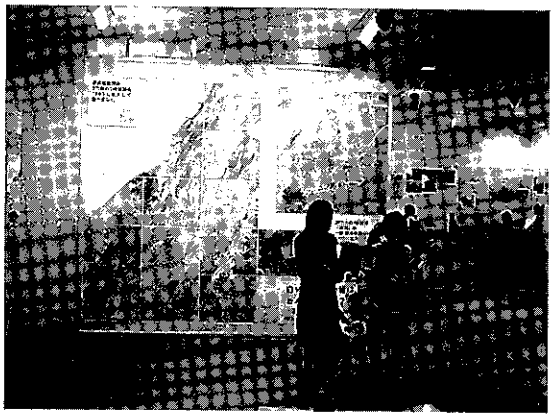

写真1　会場入口正面の壁に貼られた新潟県内の5万分の1地質図幅.

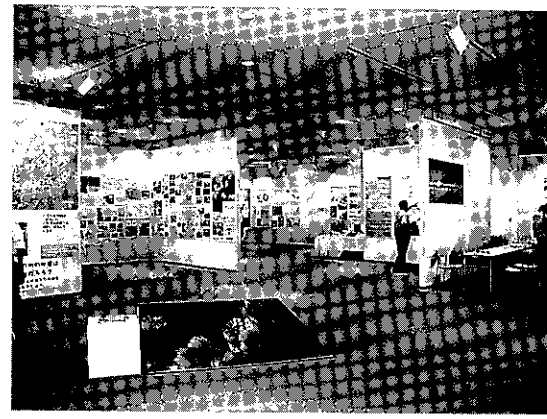

写真2　会場のレイアウトを悩ませたパーティション．今回は奥行き感と開放感を出すことができました.

ました．ある意味，失敗覚悟の大胆な決断です．アクティブでワイルドなテーマを削ったのは痛かったけれど，子供たちの目を地質に向けるための体験コーナーはなるべく残したいと考えました．さらに，会場内の視覚的な統一と経済的なスペース利用のために，展示パネルは，基本的に事務局で作成することにしました．この会場の特色である天井の高さと，床から天井までフルに使えるパーティションを効率よく使うため，基本的に床上80cm～260cmを展示スペースと考え，ほぼ畳サイズのスチロール板に貼った展示ポスターで埋め尽くそうと考えたのです．この提案は，協力いただく研究者スタッフとの実行委員会で了承されました．

私たちが特にPRに力を入れている地質図については，これまでいくつかのイベントで，拡大して貼りあわせたものを床に敷いて好評を得ていましたが，今回はスペースの都合もあり，入り口正面の壁に貼ることにしました．特に完全につなぐことをせずタイル張りとしたのは，展示デザイン上の効果だけでなく，「図幅」というメディア形態を強調する意味もありました．後日の反省会でこの展示方法には，あまり良い意見をいただけませんでしたが，これも一つのスタイル提案ということで(笑)．同じく恒例となったプリズムメガネによる，地形の立体視は，角度を持たせた台にセットすることで，入り口からすぐに目にとまり，小さな子にも見やすいようにとの配慮です．ちなみに，こっちは好評でした．

体験コーナーでは，定番の「化石レプリカ作成」「鳴り砂体験」「顕微鏡観察」「ペットボトルの液状化実験」「川の水の化学実験」「PC地学クイズ」に加え，「津波のシミュレーション」や「実体鏡で見る活断層」が新企画です．地熱利用のコーナーや地下資源のコーナーでは，実際のサンプルや模型を配置する計画をし，新潟大学を中心にして新潟独自の展示コーナーを設置することも計画しました．

次に会場にパーティションをレイアウトするにあたって，頭を抱えた問題は，前述のフルパーティションです．完全に部屋を遮るこのタイプのパーティションでは，レイアウトによって，会場を著しく狭く見せてしまいます．来場者が入り口で楽しい雰囲気を感じるために，できるだけ開放的に会場の多くを見通せる必要があります．ほぼ真四角の会場の角側が入り口になりますから，基本的に対角までを見通せ，かつ展示面積を可能な限り大きく確保し，人の流れをなるべく滞らせない形を，固定レール上に移動可能なパーティションで設計しなければなりません．最終的に決定したレイアウトを写真から感じ取っていただけますでしょうか？

夏，自業自得？

新緑の頃を過ぎ，はじめに設定したスケジュールでは，すでに本格的にパネル制作に取りかかっている時期です．制作予定のパネルは，タタミ100畳分を超えます．これまでのやり方と違い，ほぼすべてを，事務局でリデザインし，大型プロッタで出力，ラミネート後にスチロールパネルに貼り付けする手はずです．原案を受け取ってからの一連の作業が均一な密度で進めば2ヶ月で完成の予定ですが，

夏が本格化するほど，スケジュールは押す一方です．8月なかば，蝉の鳴き声にもいらつくような状態で，ヒステリックな作業に没頭する私に，周囲の方はさぞ迷惑を被ったことでしょう(笑)．全部，事務局で自前で作業すると，大見得切った事に後悔しても，もう後の祭りです．

しかし，そこはそれ，過去何年も連れ添ったGSJイベントチームですから，最終的にはできちゃうんですけどね．原寸150dpiで作成する画像ファイルはそれぞれ50～300MB，ベクターのファイルもラスタライズしてから出力した方が，プロッタのエラーを回避しやすいことが生活の知恵としてわかっています．幅100cmあるいは150cmのロール紙に出力したプリントをカット，さらに大型ラミネータによる表面処理の後またロールからカット，さらにスチロール板に貼り付け最終カット，これらの作業が連日続きました(小さいパネルもあるので総カット長はタタミ100畳分を遙かに超えます)．パネル原稿はJPEGでウェブにも公開しました．

秋，本番開幕！

会期3日前，各展示ブース・体験ブースの運営のために，研究者スタッフによって用意された大量の荷物と，どうにか間に合った100畳分のパネルを，トラックを始め3台のクルマに詰め込みます．翌日は，これらを運搬して事務局スタッフが一足早く新潟入りです．どうか良い天気でありますように！・・・翌日，高速をひた走る私たちの前途には暗雲．新潟県にはいると強い風雨に襲われました．トラックの幌がバサバサはためきます．湿気でパネル同士が張り付いたらどうしよう・・・！　会期前日の準備開始まで荷を確かめるわけにはいかないので悩んでもしょうがないのですけどね．

さぁ，会場設営の日が来ました．次々に荷物を4階のギャラリーまで運び入れます．どきどきしながら梱包を開けると・・・パネルは全部無事でした．みんなで手際よくパーティションをセットし，パネルを貼り付け，機材を並べ，照明を配置して会場設営完了です．変な話ですが，この段階で，私自身はなんだかもう満足してしまいました．来場者数は問題じゃなく，来ていただいた方に楽しい時間を過ごしていただき，私たちからのメッセージを受け取っていただければ，それでいいという感じでした．

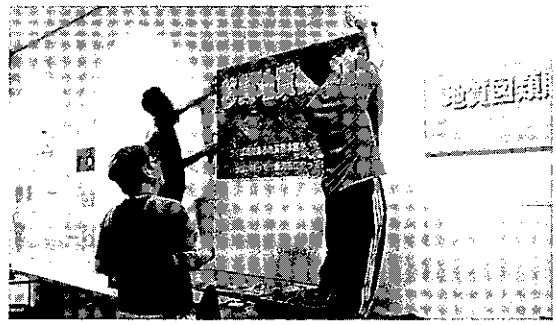

写真3　パネル設置作業．この大きさのパネルを約100枚作成し，前日にはスタッフで会場の壁を埋め尽くしました．

当日の様子は，このあと，ブースを担当していただいた研究者スタッフの方々のページをご覧いただくとともに，細かな事務のすべてを処理してくれた事務局スタッフで一番若い吉田君が，後日まとめてくれたアンケート結果をご覧いただきたいと思います．また，下記のウェブページでも会場の模様がレポートされていますので，ご覧いただけたら幸いです．http://www.gsj.jp/Info/event/2002/niigata/niigata.html

冬，また今年も！

2003年の地質情報展は，静岡市での開催が決定しました．今度はどんな情報展になるのか？ 予定されている会場では2002年よりも大幅に広いスペースが使用できる予定です．アクティブな体験コーナーも復活するかも？ 内容が固まり次第，ウェブページ等で紹介できると思います．この先，地質情報展がどのように変わっていくのか，それは全くわかりませんが，2002年の開催でも，私たちスタッフが得た経験は大変貴重なものです．これからもいろいろな形で行われる地質情報の普及に役立てていきたいと思います．開催にご協力いただいた各機関の方々，新潟市民芸術文化会館のスタッフの方々，事務局のわがままに快く協力いただいた研究者スタッフの皆さん，ありがとうございました．そして，なにより，会場を訪れ私たちのメッセージに目と耳を傾けてくださった，すべての来場者の皆さん，本当にありがとうございました．

KAWAMURA Yukio (2003)：Epilogue of "2002 Joho-ten".

＜受付：2003年1月8日＞